

3. 森林の育成・保全

私たちの暮らしを支える森林は、世代を超えて
守り育てられてきたものです。熊本の豊かな森林
をよりよい状態で将来に引き継いで
行くためには、「人」の力が必要です。



1 林業の仕事

林業は、森林を育成し木材を生産する第一次産業です。林業を通じて健全な森を育てることで、森林の持つさまざまな働きを発揮させる役割も果たしています。また、山村地域の仕事として地域社会にも貢献しています。



先祖から受け継ぎ、未来へつなぐ。
林業は壮大な仕事です。

山鹿市 野中さん(林業)

先祖から受け継いだ山を管理し、育てています。私で五代目になります。おじいちゃん、ひいじいちゃんが植えた木を、私の代で切り出して、家をつくるための材料として出荷しています。自分が植えた苗が木材になるまで50年から70年。壮大な仕事ですが、それがやりがいです。

木材生産の流れ



① 苗木づくり
(2～5年間)



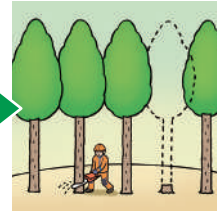
② 植林
(1年目)



③ 下草刈り
(1～8年程度)



④ 枝打ち
(10～25年目)



⑤ 間伐・収穫
(10年目～収穫)



⑥ 主伐・収穫
(40年目以降)

人工林を育てるために必要な手入れ

間伐

木の成長を促すためには、木全体に十分な光が当たるように、木と木の間を広くする間伐が必要です。そうすると森林全体に太陽の光が差し込み、より多くの二酸化炭素を吸収し、大きく太い木が育ちます。また、地面には植物も育ち、健全な森林になります。



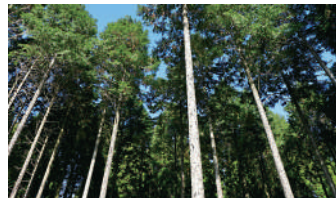
▲適切な間伐をしていない人工林



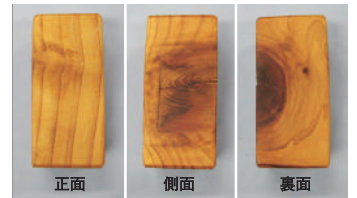
▲間伐を行っている人工林

枝打ち

木の枝の部分は製材した際に節として現れます。商品価値の高い節のない木材を生産するため、あらかじめナタやのこぎりで幹の下の方の不要な枝を切り落とすことを枝打ちといいます。枝打ちした部分は、木の成長とともに細胞に覆われます。



▲枝打ちされた木



▲枝打ちされた木材には節がない

2 森林を守る木材利用

切り出された木は、林道などを使って運搬され、多くは市場に集まりそこでセリにかけて売られます。その後、製材所等で柱や板に加工されます。

木材が家や家具などの材料として利用されると、森林の所有者は販売収入で間伐などの手入れができます。私たちが積極的に木材を利用することは健全な森林を育てることに繋がります。



▲木材市場のセリの様子



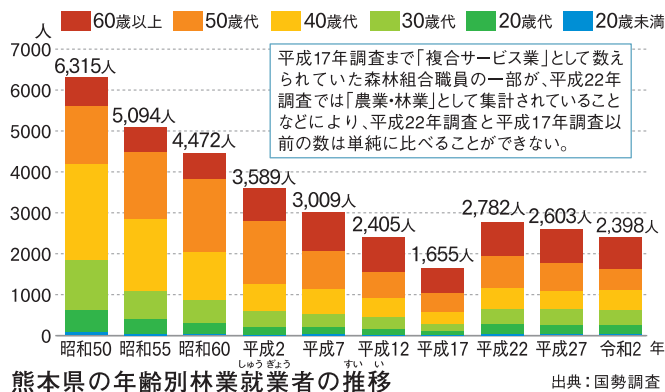
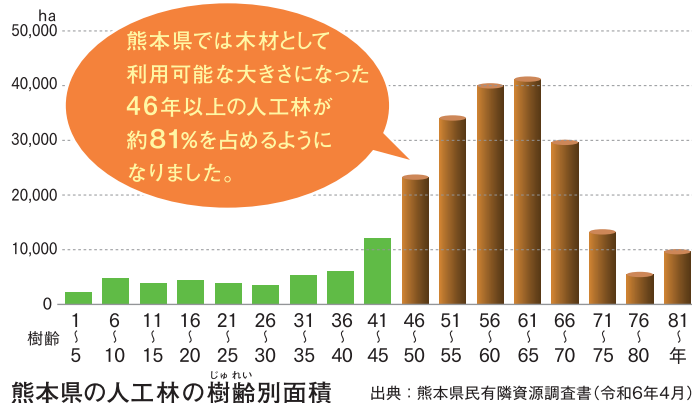
▲製材された木

*1: 国民が納める税を「森林環境税」といい、2024年度(令和6年度)から課税される。

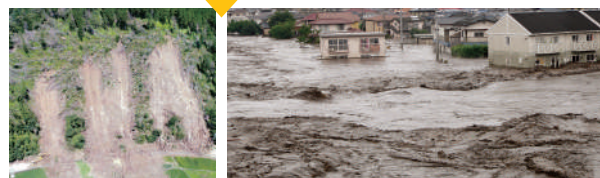
国から都道府県及び市町村に交付される税を「森林環境譲与税」といい、2019年度(令和元年度)より交付が開始される。

3 森林・林業が直面する現状

熊本県の人工林の大半は、伐採・利用が可能な樹齢になっていますが、林業の作業現場は山間部や急傾斜地が多いことや、木材価格の低迷と人件費の上昇などによる林業採算性の悪化などから、林業就業者は、減少、高齢化の傾向が続いています。一方で、高性能林業機械の導入や、自然の中で仕事ができることなどから、林業を希望する若者も少しずつ増えるなど、明るい兆しもあります。



健全な森林を維持できなくなると・・・



自然災害の危険が高まり、私たちの生活や産業に大きく影響します。



シカによる森林被害

シカが苗木を食べる食害や樹木の皮をはぐ剥皮被害が問題になっています。これらは林業に大きな被害を与えるだけでなく、土砂崩れ防止など森林の公益的機能にも影響を与えます。シカ被害を防ぐため、防止設備の設置や計画的な捕獲等の対策がとられています。



▲剥皮被害

4 森林を守る動き

熊本県森林・林業・木材産業基本計画

この基本計画は、熊本県の森林・林業・木材産業施策の基本的な方向性を示すものです。

県産木材需要を最大化させることをテーマに、木材が安定的に供給される仕組を構築するなど様々な取組を行うことが、成熟した資源を活かす林業へ繋がります。

- ①資源の循環利用による稼げる林業の推進
- ②県産木材の利活用最大化
- ③多様で健全な森林づくり
- ④林業を支える担い手の確保・育成
- ⑤山村地域の活性化
- ⑥研究・技術開発と普及の推進

新たな森林管理システムと森林環境（譲与）税

新たな森林管理システムは、放置されている人工林を集約する制度で、森林経営管理法（平成30年成立）に基づき令和元年度より開始されました。市町村が調査のうえ仲介役となり意欲のある林業経営者に経営を委ねたり、林業経営に適さない人工林は市町村が直接管理を行うなどします。また、森林の整備や、林業の担い手の育成などに用いる資金として森林環境（譲与）税^{*1}という税が創設されました。

くまもと林業大学校

林業の担い手の育成・確保のため、平成31年4月に「くまもと林業大学校」が開校しました。1年間の研修課程の中で、林業に必要な知識、技術を身につけることができます。

林業、建築について学べる
熊本県内の高等学校

学校名	科・コース
県立芦北高等学校	林業
県立矢部高等学校	林業科学
県立南陵高等学校	総合農業
県立阿蘇中央高等学校	緑と水の科学
県立八代農業高等学校 泉分校	グリーンライフ
県立熊本工業高等学校	建築
県立小川工業高等学校	
県立水俣高等学校	
県立球磨工業高等学校	
私立開新高等学校	

木と触れ合いながら、
森林や地球環境について学べる。

熊本県立芦北高等学校 林業科

林業科では、演習林実習や木育活動、地域環境保全活動などを通じて、森林・林業・環境の知識と技術を育み、プロフェッショナルを育成しています。同科で学んだ多くの生徒が、森林・林業に関わる仕事へ進んでおり、「木と触れ合う授業が楽しい！地球温暖化との繋がりにについても学べます」「木を伐採したり、普段体験できないことを学べる学科。森の中で自然の豊かさや魅力を感じることができます」との声が聞かれました。

